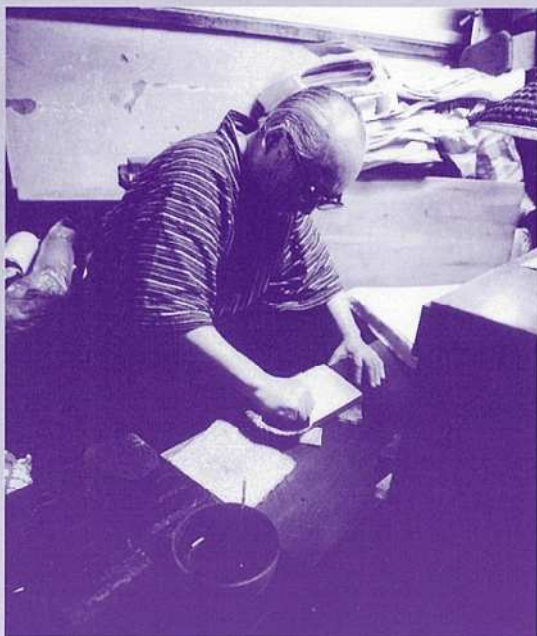


伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



木版画摺

せき おか いさ お
関 岡 功 夫
(号・扇令)

(昭和63年度作品)

16ミリ映画・ビデオ
カラー・16分

プロフィール

住所、荒川区西日暮里3-11-8。

大正13年(1924)、東京都生れ。

昭和59年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定。昭和20年から、父、仙太郎氏(初代扇令、昭和35年没)について修業。昭和35年以後、「二代目扇令」を継ぐ。

江戸時代から続く摺師の系統、日本橋石町松村家の流れを汲む木版画摺師である。伝統的な浮世絵の覆刻だけでなく、現代版画の創作にも工夫をこらし精力的に取りくんでいる。

浮世絵は、版元(資本をもった企画者、販売元)、絵師、彫師、摺師の分業によって成り立っている。今、絵師、彫師、摺師のプロジェクトチームで、新しい伝統木版画の創造、創作を手がけている。

文部大臣認定の重要民俗文化財選定保存団体「浮世絵版画彫摺技術保存協会」会員、相談役。武蔵野美術大学版画研究室特別講師。

企画 東京都荒川区教育委員会 ・ 製作 毎日映画社

用具・工具

馬連（利かぬ馬連・中利き馬連・利く馬連の別がある）、刷毛（ブラシ型・刷毛型）、顔料（植物性色料や鉱物性色料の絵具）、乳鉢、たんぼ、奉書紙（越前紙、伊予紙）など。

工程 — 「都電荒川線・熊野前風景」の場合 —

絵師：小野誠一郎氏（イラストレーター）

彫師：関岡裕介氏（関岡功夫氏長男）

(1) 【校合摺り】 — 地墨（墨板）を摺る。

彫りあがった墨板に「見当」をつけた後、用いる色数だけ摺る作業。摺りあがったものは絵師に戻されて色の指定を受け色板の版下となる。

(2) 本格的な摺りに入る前の準備作業を行う。

刷毛（ブラシ）は水で洗い、さらに鮫の皮でこすって毛先を割り軟らかくする。

(3) 色板を摺る。

【紙を落とす】 — 紙の湿り具合で仕上がりに差が出るので紙には常時同じ湿度を与えておくことが必要。このため、作業の途中で紙の水分が均等になるよう、紙をずらしながら並べる作業のことをこう呼ぶ。その上に湿った布をかぶせ、紙の乾燥を防ぐ。

刷毛に絵具をつけ、版木にぬる。

版木につけられた「見当」にあわせて紙をのせる。

馬連で摺る。

版の面積が小さく、色が薄くて絵のポイントとなる部分を先に摺り、面積が大きく、色が濃い方へと摺りあげていくのが原則的な方法。

※摺りの技法（今回の場合）

【ぼかし】 — 色の濃淡によって、境界をあいまいにし、画面に独特の雰囲気を与える技法。

【拭きぼかし】 — ぼかすべき部分を「たんぼ」で拭き、水気を含ませたところに刷毛で絵具をのせ、摺りあげる。

※その他の主な技法

【一文字ぼかし】

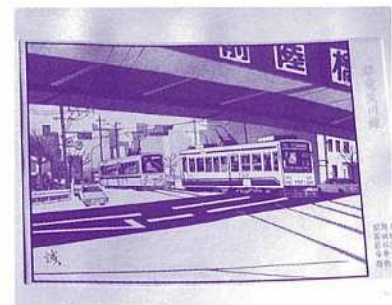
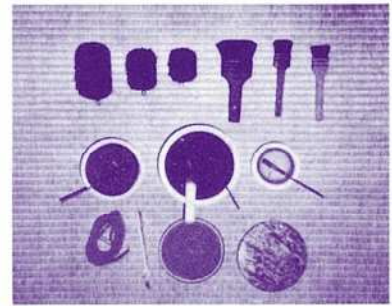
【雲母摺】 — 雲母の粉末を用いる。

【空摺】 — 版木に絵具をつけず、利く馬連で強く摺る。

最後に文字の部分の摺る。利かない馬連を使用する。

(4) 乾燥。

(5) 仕上げ（点検）。



(完成作品)

この記録〈ビデオテープ〉は荒川区教育委員会社会教育課及び、荒川区内の各図書館で貸し出しています。なお〈16mm映画〉は社会教育課及び、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。どちらも貸出期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。但し、〈16mm映画〉の貸出には団体登録と16mm映写機講習修了者の操作が義務づけられています。

〈問い合わせ先〉

荒川区教育委員会社会教育課……………3802-3111（内線3358）

荒川図書館……………3891-4349

町屋図書館……………3892-9821

尾久図書館……………3800-5821

日暮里図書館……………3803-1645

南千住図書館……………3807-7114